

やんばるの鳥

山地・森林、平地、水辺の111種



はじめに

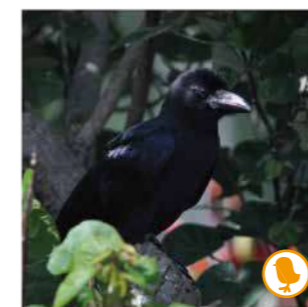
沖縄県は、日本最南端の波照間島、最西端の与那国島を含む約160の島々からなり、その最大の島が沖縄島です。沖縄島の北部地域は“やんばる”と呼ばれ、標高503mの与那覇岳をはじめとする山々が連なり、イタジイを中心とする亜熱帯の常緑広葉樹林に覆われています。沖縄県では実に多様な鳥類が観察されます。陸地面積は日本全体のわずか0.6%ながら、約500種の鳥類が記録されており、これは日本全体で記録されている種の約8割にあたります。ただし、その多くは迷鳥や渡り鳥です。特に多くの迷鳥が観察されますが、沖縄県が中国大陸や東南アジアに近いことがその理由のひとつです。

種数が多いわけではありません。特にやんばるは、この地域にしか生息していない固有種を含め、貴重な鳥類が観察されます。やんばるには日本固有の鳥類11種のうちの4種にあたるヤンバルクイナ、ノグチゲラ、アカヒゲ、アマミヤマシギが生息しており、これら4種にカラスハトを加えた5種が国や県の天然記念物に指定されています。また、メジロやウグイス、コゲラなど、全国的によく見られる種も、沖縄周辺地域では地域固有の亜種とされている場合が多く、こうした固有性の高さも特徴のひとつになっています。ここでは、やんばるで見られる鳥たちの中から、111種をご紹介します。

山地・森林の鳥



琉球キュウサンショウクイ*
Ashy Minivet (Okinawa Sub.)
山地森林から市街地の緑地公園まで広く生息する。最近、生息分布を本州南部まで広げている。



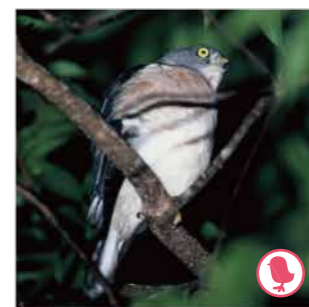
琉球キュウハシトガラス*
Large-billed Crow (Okinawa Sub.)
森林から市街地まで広く生息している。雑食性でハインなどの農作物を食害することもある。



アマミヤマガラ*
Varied Tit (Okinawa Sub.)
山地森林部に生息し、「ツツビー、ツツビー」とさえずる。木の实や昆虫類をエサにしている。



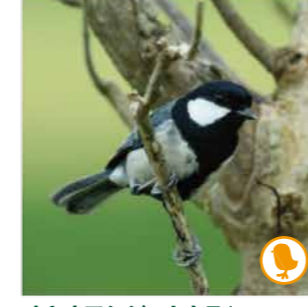
ヤマシキ
Eurasian Woodcock
冬に山地近くの草原や農耕地に渡来。やわらかい地面にくちばしを差し込みミズなどを捕獲する。



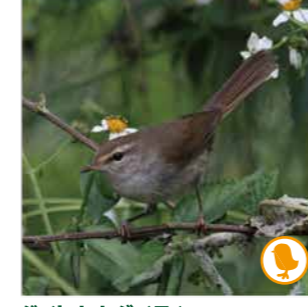
アカハラダカ
Chinese Sparrowhawk
9月頃に朝鮮半島から群れて渡来。山地森林部で一夜を過ごし、南下していく旅鳥。写真は雌。



キマコムシクイ
Yellow-browed Warbler
秋から森林地域に渡来し、越冬するムシクイ類。翼に黄白色または白色の帯がある。



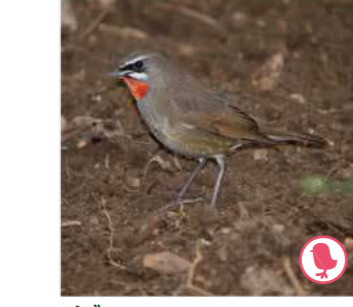
オキナワシジュウカラ*
Japanese Tit (Okinawa Sub.)
山地森林から市街地の公園まで生息する。「ツツビー、ツツビー」とさえずる。昆虫類をエサにしている。



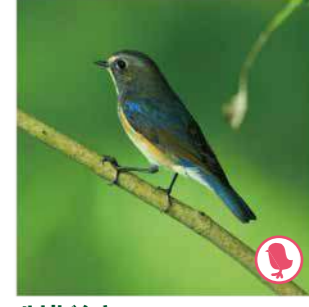
ダイトウウグイス*
Japanese Bush Warbler (Okinawa Sub.)
沖縄島の山地から低地の森林地域、農耕地周辺などに生息するウグイスの亜種で、渡りを行わない。



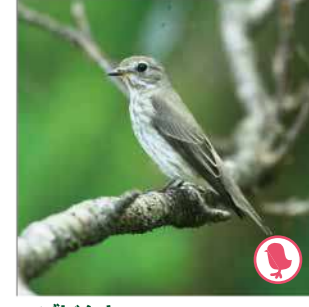
リュウキュウメジロ*
Japanese White-eye (Okinawa Sub.)
山地森林から住宅地まで広く生息する。繁殖期には木立に吊り果をつくり、繁殖する。



ノコマ
Siberian Rubythroat
冬に山地から低地の森林や農耕地周辺などに渡来し、越冬。茂みで鳴いていることが多い。写真は雄。



ルリヒタキ
Red-flanked Bluetail
冬に山地から低地の森林、農耕地などに渡来し、越冬。地上や木立で昆虫類を捕獲。写真は雄。



エソヒタキ
Grey-spotted Flycatcher
秋に県内各地を通過していく旅鳥。山地から平地の林縁、農耕地、畜舎周辺などでよくみられる。



リュウキュウキビタキ*
Narcissus Flycatcher (Okinawa Sub.)
キビタキの南西諸島固有亜種。山地森林地域に生息。樹洞を使って繁殖する。写真は雄。



リュウキュウアカシヨウビン*
Ruddy Kingfisher (Okinawa Sub.)
夏に山地森林地域に渡来し生息する。枯れた木に横穴を掘り、雛を育てる。



リュウキュウサンコウチョウ*
Japanese Paradise Flycatcher (Okinawa Sub.)
夏に山地森林に渡来する。木立の二叉などにコップ型の巣をつくり繁殖する。写真は雄。



アトリ
Brambling
冬に山地から低地の森林部、市街地の緑地公園などに渡来し、群れて移動しながら越冬する。



マヒワ
Eurasian Siskin
県内各地に群れて渡来し、山地森林の木立や農耕地、公園などでみられる。写真は雄。



アオジ
Black-faced Bunting
冬に山地から低地の森林部、農耕地周辺などで越冬するホオジロ類。比較的数は多い。写真は雄。

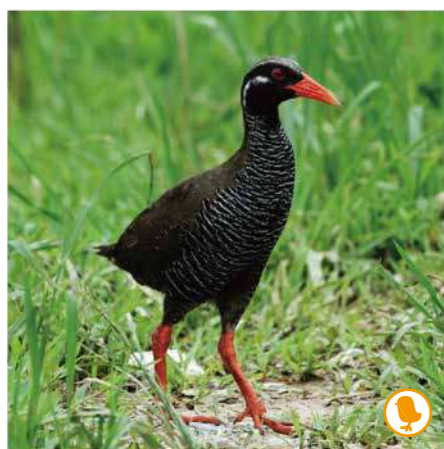
留鳥(年中いる鳥)

夏鳥(夏にくる鳥)

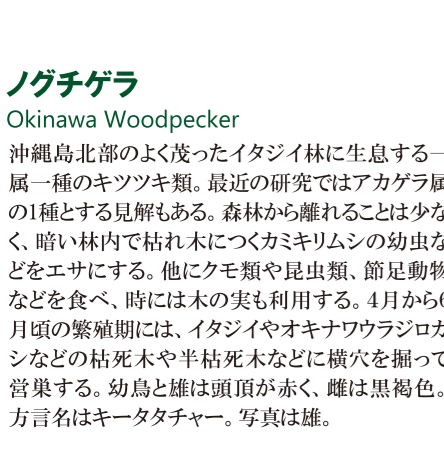
*沖縄周辺地域に固有の亜種は亜種名で示す。

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)

山地・森林の鳥



ヤンバルクイナ
Okinawa Rail
沖縄島北部の平地から山地の森林地域などに生息する固有種で、1981年に新種として記載された。日本で唯一の飛べない鳥。日中はうす暗い森林内や谷間沿いを歩きまわり、枯れ葉の下や土の中にミズやカエル類などを捕らえてエサにしている。カタツムリ類の殻を割って食べることもある。「キョッキョッキョッキョ」と大きな声で鳴く。夜間には、傾斜の緩やかな太い枝などにのぼり樹上でねぐらをとる。方言名はアカゲー。



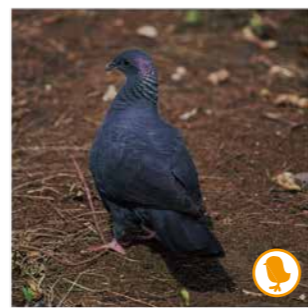
ノグチゲラ
Okinawa Woodpecker
沖縄島北部のよく茂ったイタジイ林に生息する一属一種のキツツキ類。最近の研究ではアカゲラ属の1種とする見解もある。森林から離れることは少なく、暗い林内で枯れ木につくカミキリムシの幼虫などをエサにする。他にクモ類や昆虫類、節足動物などを食べ、時には木の実も利用する。4月から6月頃の繁殖期には、イタジイやオキナワウラジロガシなどの枯死木や半枯死木などに横穴を掘って営巣する。幼鳥と雌は頭頂が赤く、雌は黒褐色。方言名はキータチャー。写真は雄。



ホントウアカヒゲ*
Ryukyu Robin (Okinawa Sub.)
沖縄島北部の森林地域に生息するアカヒゲの1亜種。4月から6月頃の繁殖期には、特有の声量のある澄んだ声でピピルルルルやチュリチュリと鳴く。低い木立の樹洞(うろ)やヒカゲヘゴの枯死木などを使って巣づくりを行い、3~5個の卵を産む。種アカヒゲは、男女群島やトカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島などの森林地域に生息する日本の固有種。沖縄より北で繁殖するアカヒゲの一部は沖縄で越冬する。方言名はアコー。写真は雄。



オンドリ
Mandarin Duck
沖縄島北部で繁殖。森林でドングリやカタツムリなどをエサにしている。一部は冬鳥。写真は雄。



カラスハト
Japanese Wood Pigeon
森林地域に生息するハトの仲間。全身黒色。繁殖期には「ウッ、ウー」と牛のような鳴き声で鳴く。



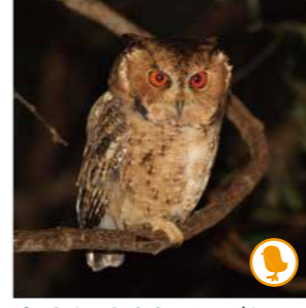
ズアカアオハト
Whistling Green Pigeon
全身緑色のハトで、森林地域に生息。繁殖期には「ホアアアア、アアア」と連続して鳴く。



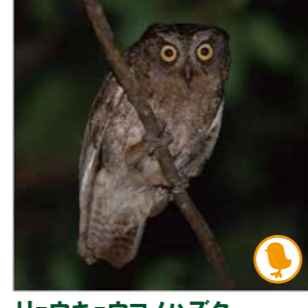
アマミヤマシギ
Amami Woodcock
奄美諸島で繁殖し、沖縄島でも少数が周年生息する。一部は冬鳥として渡る。主に夜行性。



ツミ
Japanese Sparrowhawk
山地森林部から市街地の緑地公園まで広く生息する小型のタカ類。小鳥類をエサにしている。



リュウキュウオオノハズク*
Collared Scops Owl (Okinawa Sub.)
山地森林地域から市街地の残存林などにすむフクロウ類。主に樹洞で繁殖する。



リュウキュウノハズク
Ryukyu Scops Owl
山地森林に生息するフクロウ類で、「コホウ、コホウ」と連続して鳴く。樹洞を使って繁殖する。



リュウキュウアオハズク*
Brown Hawk-Owl (Okinawa Sub.)
山地森林に生息するフクロウ類で、「ホウホウ、ホウホウ」と連続して鳴く。耳羽がなく、顔は丸い。



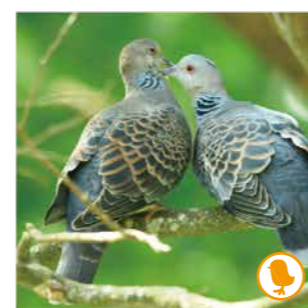
リュウキュウコゲラ*
Japanese Pygmy Woodpecker (Okinawa Sub.)
小型のキツツキ類。山地森林から市街地の緑地公園まで生息。枯れ木につく昆虫の幼虫を食べる。

留鳥(年中いる鳥)

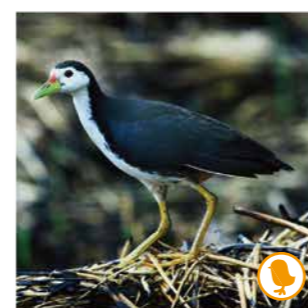
*沖縄周辺地域に固有の亜種は亜種名で示す。

山地・森林の鳥

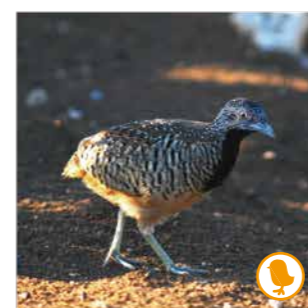
平地の鳥



リュウキュウキジハト*
Oriental Turtle Dove (Okinawa Sub.)
山地森林から農耕地や住宅地、公園まで広い範囲で生息するハト類。周年繁殖する。



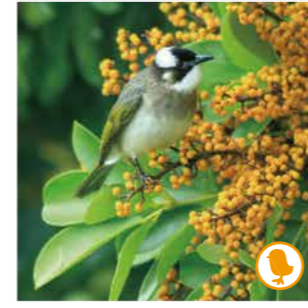
シロハラクイナ
White-breasted Waterhen
水田や田イモ栽培地、湿地などに生息する。最近、九州や四国でも生息が確認されている。



ミアウスラ
Barred Buttonquail
草原や農耕地周辺に生息。雄が抱卵や育雛を行う。雌は首から胸に黒褐色斑がある。写真は雌。



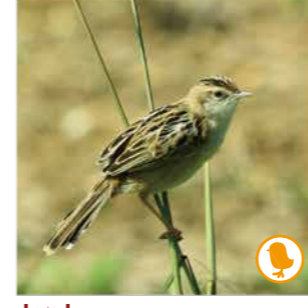
リュウキュウツバメ
Pacific Swallow
奄美諸島以南で繁殖し、渡りを行わない。ツバメに比べ尾羽が短く、腹部も白くない。



シロガシラ
Light-vented Bulbul
住宅地から農耕地など開けた場所に生息する。沖縄島では外来種とされている。



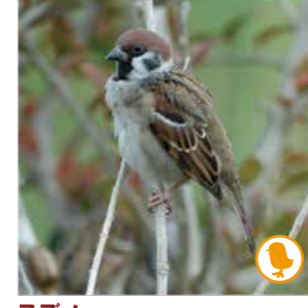
リュウキュウヒヨドリ*
Brown-eared Bulbul (Okinawa Sub.)
住宅地から農耕地、森林まで広い範囲に生息。沖縄産は色が濃く、別亜種とされている。



セツカ
Zitting Cisticola
農耕地や牧草地、草原などで見られる。チガヤなどで袋状の巣をつくり繁殖する。



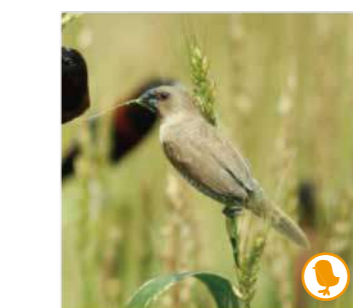
イソヒヨドリ
Blue Rock Thrush
以前は海岸近くのみ生息していたが、最近では内陸部の住宅地などでもみられる。写真は雄。



スズメ
Eurasian Tree Sparrow
農耕地や水田地域でみられる。群れをつくり、イネ科の植物種子をエサにしている。

留鳥(年中いる鳥)

*沖縄周辺地域に固有の亜種は亜種名で示す。



シマキンバラ(アミハラ)
Scaly-breasted Munia
農耕地や水田地域でみられる。群れをつくり、イネ科の植物種子をエサにしている。外来種。



ギンバラ
Tricolored Munia
農耕地や水田などに渡来し、越冬する。繁殖期には群れをつくり、イネ科の植物種子をエサにしている。外来種。



ツバメトドリ
Indian Pratincole
夏に、農耕地やまばらな草原などに渡来し繁殖する。キリリ、キリリと鳴く。



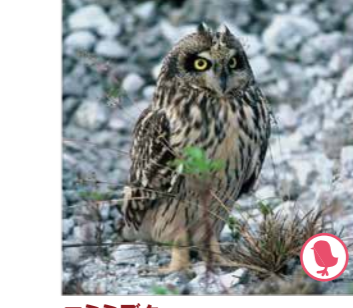
アマサギ
Cattle Egret
農耕地や牧草地、水田などに群れて渡来し越冬する。繁殖期は頭部から背中にかけて淡黄色。



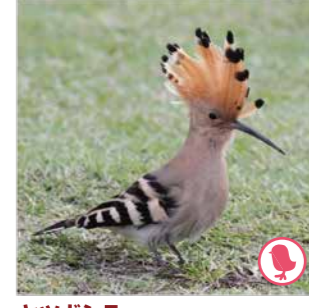
チュウサギ
Intermediate Egret
農耕地や水田などに渡来し越冬する。渡り期以外は群れることはなく、単独でいることが多い。



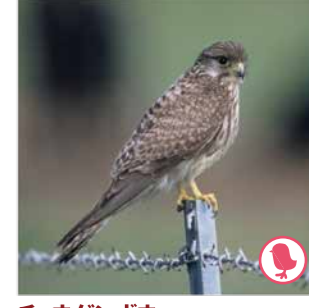
サシバ
Grey-faced Buzzard-eagle
10月頃に大きな群れをなして渡来し、通過する旅鳥。その一部は居残り、越冬する個体もいる。



コミミズク
Short-eared Owl
冬の草原や牧草地などに少数が渡来し、越冬する。ネズミ類をエサにしている。



ヤツガシラ
Eurasian Hoopoe
春と秋に海岸近くの草原や農耕地などに渡来し、越冬する。頭部の飾り羽は扇状に広がる。



チョウゲンボウ
Common Kestrel
冬に農耕地や水田など開けた場所に渡来し、越冬する。空中でホバリングしながらエサをさがす。

留鳥(年中いる鳥)

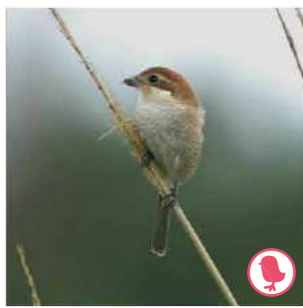
夏鳥(夏にくる鳥)

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)

平地の鳥



ハヤブサ
Peregrine Falcon
冬に農耕地や水田など開けた場所に渡来し越冬する。小鳥類を捕獲してエサとする。



アカモズ
Brown Shrike
冬に農耕地や牧草地など開けた場所に渡来し越冬する。バッタ類など昆虫類をエサにしている。



ツバメ
Barn Swallow
春と秋に通過する旅鳥。一部越冬。尾羽が細長い。最近、沖縄島北部で繁殖例があった。



カイツブリ
Little Grebe
ダム湖や河川、池など水辺でみられる。よく水中にもぐり、小魚や水生昆虫などをエサにしている。



リュウキュウヨシゴイ
Cinnamon Bittern
河川や湿地、イグサ栽培地などに生息している。アジア南部に広く分布する。写真は雄。



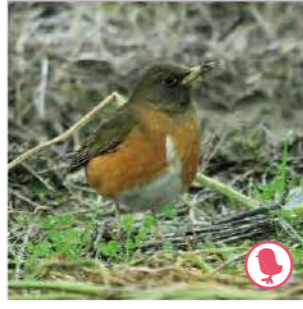
ゴイサギ
Black-crowned Night Heron
河川や湿地、田イモ栽培地などに生息。繁殖期には河川沿いで集団繁殖地をつくる。一部冬鳥。



トラツグミ
Scaly Thrush
冬に林縁や農耕地周辺などにごく少数が渡来し越冬する。枯れ葉下のミズ類などをエサにしている。



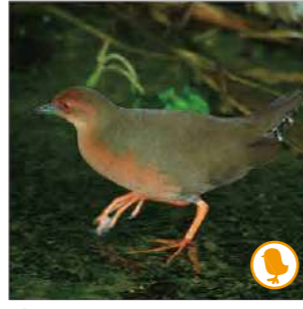
シロハラ
Pale Thrush
冬に森林地域や林縁、農耕地周辺などに数多く渡来し越冬。エサは枯れ葉下のミズ類や昆虫類。



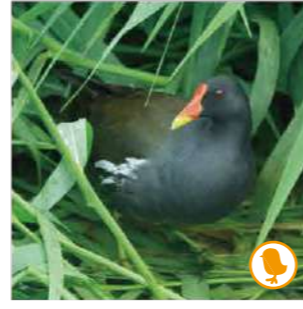
アカハラ
Brown-headed Thrush
冬に林縁や農耕地周辺などに少数が渡来し越冬する。枯れ葉下のミズ類などをエサにしている。



クロサギ
Pacific Reef Heron
海岸線でみられ、黒色型と白色型がある。写真は黒色型。他のサギ類に比べ、足が短い。



リュウキュウヒクイナ*
Ruddy-breasted Crake (Okinawa Sub.)
河川や湿地、田イモ栽培地などに生息。顔から腹部が赤褐色。キョ、キョ、キョと一声ずつ鳴く。



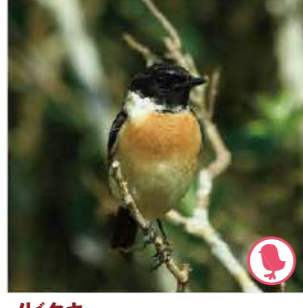
パン
Common Moorhen
河川や湿地、田イモ栽培地などにみられる。全身黒褐色で脇に細い白線がある。



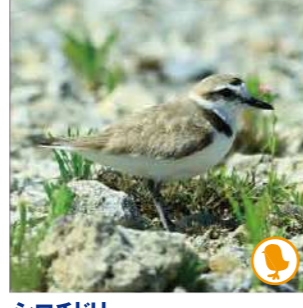
ツグミ
Naumann's Thrush
冬に丈の低い草原や農耕地周辺などに渡来し越冬する。エサは枯れ葉下のミズ類や小型昆虫類。



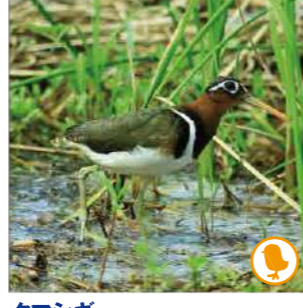
ジョウビタキ
Daurian Redstart
冬に草原や農耕地周辺など開けた場所に渡来し越冬する。昆虫類などを捕獲する。写真は雄。



ノビタキ
African Stonechat
冬に草原や農耕地周辺などに渡来し越冬する。昆虫類などを捕獲する。写真は雄。



シロチドリ
Kentish Plover
海岸線や埋め立て地でみられるチドリ類。砂浜海岸などで繁殖している。一部冬鳥。



タマシギ
Greater Painted Snipe
水田や田イモ栽培地、湿地などに生息する。抱卵や子育ては雄の役割。写真は雌。



カワセミ
Common Kingfisher
河川や池、沼地など水辺に生息する。背が鮮やかなブルー。小魚類や甲殻類をエサにしている。

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)

留鳥(年中いる鳥)

*沖縄周辺地域に固有の亜種は亜種名で示す。



コアシサシ
Little Tern
埋め立て地や海岸などに渡来し、集団繁殖地を形成して繁殖する。小魚類を捕獲する。



ベニアジサシ
Roseate Tern
岩礁や無人島などに渡来し、集団繁殖地を形成して繁殖する。小魚類をエサにする。



エリグロアジサシ
Black-naped Tern
海岸崖地や岩礁などに渡来し、小さな集団を形成して繁殖する。小魚類をエサにする。



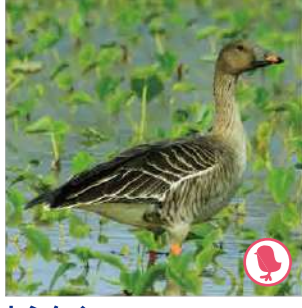
カワウ
Great Cormorant
冬に池やため池、ダム湖などに渡来し、数も多い。潜水して小魚をエサにする。



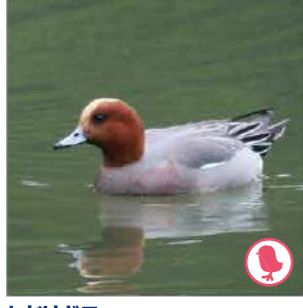
ササゴイ
Striated Heron
冬に河川や池などに渡来し、越冬する。背中の羽がササのように見える。



アカガシラサギ
Chinese Pond Heron
冬に湿地や田イモ栽培地、水田に少数が渡来し、越冬する。冬羽では頭部、胸、背面が茶褐色。



ヒシクイ
Bean Goose
冬に水田や田イモ栽培地などに少数が渡来し、越冬する。くちばしの先端近くに橙色の斑がある。



ヒドリガモ
Eurasian Wigeon
冬に池や沼地、河川などに渡来し、越冬する。雄は顔から頭頂にかけてクリーム色。写真は雄。



マガモ
Mallard
冬に池や沼地、河川などに渡来し、越冬する。雄は頭部から首が青色をしている。写真は雄。



アオサギ
Grey Heron
冬に河川や池、沼地などに渡来し、越冬する。全身が灰色。河川沿いで小魚類をエサにしている。



ダイサギ
Great Egret
冬に河川や池、田イモ栽培地などに渡来し、越冬する。くちばしが黄色で長く、首も長い。



コサギ
Little Egret
冬に河川や水田、田イモ栽培地などに渡来し、越冬する。一部地域では留鳥。



カルガモ
Eastern Spot-billed Duck
冬に池や沼地、河川、田イモ栽培地などに渡来し、越冬する。一部は留鳥。



ハシビロガモ
Northern Shoveler
冬に池やため池、イグサ栽培地などに渡来し、越冬する。雌雄ともくちばしは太くて長い。写真は雄。



オナガガモ
Northern Pintail
冬に池や沼地、河川などに渡来し、越冬する。雄の尾羽は灰色で長い。写真は手前が雄、奥が雌。



クロツラヘラサギ
Black-faced Spoonbill
冬に河川や干潟などに少数が渡来し、越冬する。しゃもじの形をしたくちばしが特徴的。写真は冬羽。



ツルクイナ
Watercock
冬に水田や田イモ栽培地などにごく少数が渡来し、越冬する。写真は雄幼鳥。



オオパン
White Coot
冬に河川や池、ダム湖などに数多く渡来し越冬する。留鳥のパンに比べ大きく、全身灰黒色。

留鳥(年中いる鳥)

夏鳥(夏にくる鳥)

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)



タゲリ
Northern Lapwing
冬に水田や田イモ栽培地などに少数が渡来し、越冬する。頭頂の長く伸びる冠羽が特徴的。



ムナグロ
Pacific Golden Plover
秋から冬に干潟や湿地、海岸などに群れて渡来し、通過する。一部は越冬。写真は冬羽。



ダイゼン
Grey Plover
干潟や海岸線などに小さな群れで渡来し、越冬する。ムナグロより大きい。写真は冬羽。



アカアシシギ
Common Redshank
秋から冬に河川や水田、田イモ栽培地などに渡来し、越冬する。足は橙色。



アオアシシギ
Common Greenshank
秋から冬に河川や水田、田イモ栽培地などに渡来し、越冬する。足は緑灰色。



クサシギ
Green Sandpiper
秋に河川や水田、田イモ栽培地などに渡来し、越冬する。



コチドリ
Little Ringed Plover
秋に水田や田イモ栽培地などに渡来し、越冬。目のまわりの黄色のリングが特徴的。写真は冬羽。



メダイチドリ
Mongolian Plover
秋から冬に干潟や海岸線などに群れて渡来し、通過する。一部は越冬。写真は冬羽。



セイタカシギ
Black-winged Stilt
秋から冬に河川や水田、田イモ栽培地などに数多く渡来し、越冬する。



タカブシギ
Wood Sandpiper
秋の早い時期に河川や水田、田イモ栽培地などに群れて渡来し、越冬する。



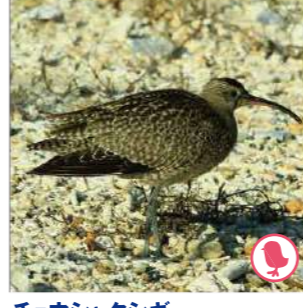
キアシシギ
Grey-tailed Tattler
秋に河川や干潟などに渡来し、通過していくが、その一部は越冬する。足は黄色。



ソリハシシギ
Terek Sandpiper
秋に河川や干潟、海岸などに渡来し、通過していく。くちばしが少し上に反っている。



ソリハシセイタカシギ
Pied Avocet
冬に河口干潟や田イモ栽培地などにごく少数が渡来し、越冬する。



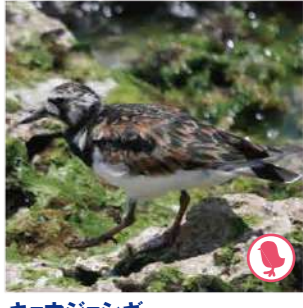
チュウシャクシギ
Whimbrel
秋に河口干潟などに少数が渡来し、通過する。一部は越冬。



ダイシャクシギ
Eurasian Curlew
秋に干潟などに少数が渡来し、一部越冬する。くちばしが下にカーブし、長いのが特徴的。



イソシギ
Common Sandpiper
秋から河川や水田、田イモ栽培地などに数多く渡来し、越冬する。尾を上下に振る。



キョウジョシギ
Ruddy Turnstone
秋に河川や干潟、海岸などに渡来し、通過する。海岸の小石をくちばしでひっくり返してエサをとる。



ミユビシギ
Sanderling
秋に河川や砂質の干潟、海岸などに渡来し、その一部は越冬する。趾(あしゆび)は3本。

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)



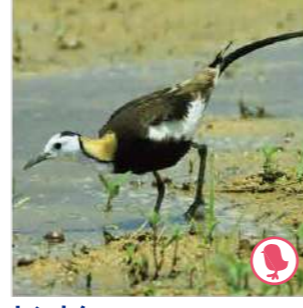
ヒバリシギ
Long-toed Stint
秋から冬に河川や水田、田イモ栽培地などに群れて渡来し、越冬する。



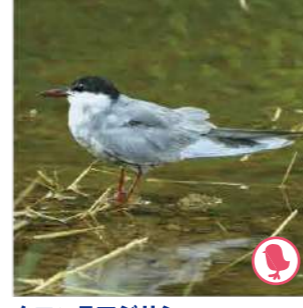
ウズラシギ
Sharp-tailed Sandpiper
秋に河川や水田、田イモ栽培地などに渡来し、通過していく。ヒバリシギより大きく、丸みがある。



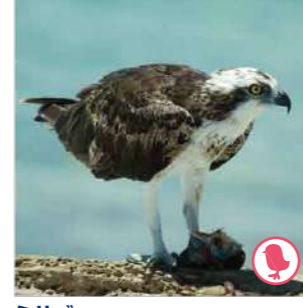
ハマシギ
Dunlin
秋に群れをなし干潟などに渡来し通過するが、その一部は越冬する。



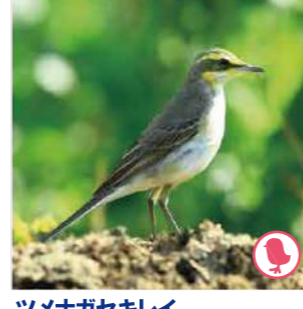
レンカク
Pheasant-tailed Jacana
秋から冬に河川や水田、田イモ栽培地などにごく少数が渡来し越冬する。写真は夏羽。



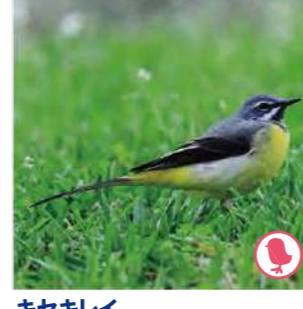
クロハラアジサシ
Whiskered Tern
秋に河川や田イモ栽培地、ダム湖などに渡来し、通過していく。顔から後頸は黒色。



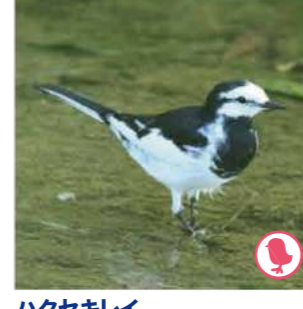
ミサゴ
Western Osprey
冬に海岸や干潟、ダム湖などに渡来し、越冬する。水面にダイビングして魚類をエサにする。



ツメナガセキレイ
Yellow Wagtail
秋に河川や水田、田イモ栽培地などに渡来し、通過していく。写真は垂成鳥。



キセキレイ
Grey Wagtail
秋に河川や水田、田イモ栽培地、農耕地などに渡来し、越冬する。尾を上下に振る。写真は雄夏羽。



ハクセキレイ
White Wagtail
秋に河川や水田、田イモ栽培地、農耕地などに渡来し、越冬する。写真は雄夏羽。

冬鳥・旅鳥(冬にくる鳥・渡りの途中に訪れる鳥)

迷鳥 うっかり? 台風で? 迷い込んだ鳥たち



ベニバト
Red Turtle Dove



ジャワアカガシラサギ
Javan Pond Heron



オウチュウ
Black Drongo



カササギ
Eurasian Magpie



クロウタドリ
Common Blackbird



ブロンストキ
Glossy Ibis

野鳥観察の心得

1. そっと見守る

鳥を追い回したり、巣に近づきすぎたりして、鳥を驚かせないようにしましょう。巣立ったばかりのヒナが地面に落ちていることがあります。飛ぶ練習をしているところですので、ケガをしている場合以外は拾わないようにしましょう。

2. 環境を変えない

観察や撮影のために木の枝を折るなど、野鳥の生息環境を変える行為は慎みましょう。

3. まわりの人に十分な配慮を

私有地への無断立ち入りはやめましょう。車を停めて中から観察する際は、他の車の通行の妨げにならないように気をつけましょう。

4. 危険な生き物に注意!

やんばるの森にはハブなどの危険な生き物がいます。十分に注意して、観察を楽しみましょう。